

創立記念礼拝

畑の宝

学院長・宗教総主事 佐々木 哲夫

主は天に御座を固く据え

主権をもってすべてを統治される。

御使いたちよ、主をたたえよ

主の語られる声を聞き

御言葉を成し遂げるものよ 力ある勇士たちよ。

詩編 103 編 19 節-20 節

天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。 マタイによる福音書 13 章 44 節

*

本日の新約聖書は「畑の中の宝」とでも題し得る短い箇所です。内容は、「天の国」を説明しています。原文のギリシヤ語は英語と同じで単語の配列が日本語と逆ですので、目に入る単語の順番は「ようです」「国」「天」となります。すなわち、読者の印象としては「国」が最初で、次に「天」がインプットされることとなります。

「国」と聞きますと最初に頭に浮かぶ理解は、土地など地域です。万里の長城やエルサレムの城壁など、王様の支配が及ぶ地域、目に見える地域が連想されます。しかし、「国」と翻訳されている原語の単語には、目に見える地域の意味だけでなく、目に見えない区域、王様の統治能力が及ぶ範囲との意味もあります。マックス・ヴェーバーという学者は、国家を定義するのに、三つの要素を挙げています。第一は占有する土地、第二はそこに住む民、第三は統治する政府機関の存在です。これらの三要素が国家を成立させる最低条件と説明しています。国は、王と民だけでは成立せず、統治する土地が必須となります。

紀元 70 年、ローマ帝国によってイスラエルは国が滅ぼされました。やがて、住んでいたイスラエルの民は土地を追われて全世界に離散し、散り散りバラバラになりました。流浪の民ユダヤ人の始まりです。約 1900 年後の 1948 年にユダヤ人は現在のイスラエルの土地に国を再建します。しかし、その時に至るまでの歴史は迫害の連続でした。シェイクスピアの「ベニスの商人」に登場する高利貸シャイロックのモデルは流浪のユダヤ人でした。ユダヤ人のこのような歴史は大変なことです。日本の歴史で言うならば、弥生時代に消滅した日本を再建するために、1900 年後の令和の時代に世界

各地から日本人の子孫たちが今日の土地に集まって国を再興し、当時の言葉を復元して自分たちの国語に定めるという離れ業です。そのような長期に渡る出来事は不可能に思われます。しかし、実際、今日、イスラエルという国が存在します。奇跡だと思えます。国家の建設や維持のため、指導者は、土地を得ようとします。民もそれに協力します。国の存亡をめぐる土地争いの戦争は、過去のことでなく現在の世界にもあることは、私たちの承知しているところです。

* *

本日の聖書箇所はそのような地上の土地ではなく「天の国は」と語りかけています。イエスは「畑は世界、良い種は御国の子ら」(マタイによる福音書 13 章 38 節)と他の箇所でも語っています。すなわち、天の国とは神の支配を受け入れた人のいる所です。視点を変えるならば、神の支配を受け入れて生きている人は、地上の土地に住んでいる人でも、そこは天の国に住んでいるのです。そのような場所について、イエスは、喩えを通して説明しました。

天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

畑には「宝が隠されている」のです。宝と聞きますと大判小判金銀宝石を連想します。「宝」と翻訳されている Thesaurus (シソーラス)とのギリシア語の意味を辞書で調べてみますと「宝の箱」とあります。そうです。一つ二つではなく、蓋を開くと高価な宝がザクザクと出てくる「箱」のイメージです。天の国とは、宝の箱が埋まっている畑なのです。予期せず箱を発見した人は、自分が今持っているものを全部手放してお金に換えて、その土地を買うほどの場所だということです。今持っている自分の全財産よりもさらに価値があると判断されるということです。現在の遺失物法では、埋蔵金などを発見した場合、本来の所有者が名乗りでてこない場合は、6ヶ月間の公告を経て、発見者と土地の所有者との間で埋蔵金を折半することになっています。天国の喩えの人物は、土地を買ったのですから、宝箱を全部自分のものにすることができることになります。それが天の国だということです。

* * *

1779 年ロンドンで牧師の子として生まれたピーター・マーク・ロジェは、早々に両親と死別し、親族も死んでしまい、うつ病になってしまいます。彼は、病を克服するために子どもの時から言葉を集めてリストを作る作業をしました。やがて大学で医学を修め、55 歳の時に王立研究所の生理学教授職に就くなど業績を上げ、61 歳の時に全ての公職から引退しました。しかし彼は引退後も、言葉を集めのリストを作る作業を継続し、とうとう、73 歳の時に集めた単語のリストを本にまとめて出版します。彼は、その本

に Thesaurus との名前をつけました。「宝箱」です。今日、英文学科の学生さんが持っている英語の類語辞典「ロジェのシソーラス」がそれです。それは学生にとっての宝箱だけでなく、ピーター・マーク・ロジェ自身の人生をも豊かにした宝箱だったのです。ロジェにとって「シソーラス」は、畑に埋められた宝の箱すなわち天の国の宝の箱だったのです。

* * * *

今日私たちは神の支配する領域に住んでいます。宮城学院がそれです。神が共にいる天の国です。そこには宝の箱が埋まっています。その蓋を開いて中から尊い宝を取り出し、自分のものにするならば、それは、今持っているすべてのものを売り払って得る以上の価値があるのです。歴史を振り返る時、宮城学院の卒業生や教育に携わった職員が、それぞれに宝を見出し、御国の子として地上の人生を送ったことでありましょう。押川先生、ホーイ&オールド宣教師夫妻、プールボー校長など創設に関わった先生、また、148年の歴史を支えた学生生徒教職員事務職員の方々など先達に感謝を捧げるものです。

(2024年9月18日)